

日本・中国国際共同制作 精巧大型人形劇
「三国志」一総集編一

企画書
三国志

三顧の礼、赤壁の戦い、甘露寺の宴、出師の表、
空城の計、五丈原など数々の名場面を1m20cmの大型人形が80体が演じる

三国志作品の決定版
2時間（休憩10分を含む）

- 【原作】・・・・・・羅貫中（平凡社刊 立間 祥介 訳）
『三国志演義』より
【脚本】・・・・・・ジェームス三木
【演出】・・・・・・小森 美巳
【人形美術】・・・・川本 喜八郎
【出演】・・・・・・劇団影法師
・・・・・・中国天津木偶芸術劇団

初演から20年、世界180万人を魅了した
普遍的な感動。



決定版 / 日中合作大型人形劇「三国志」

第一幕 三顧の礼より赤壁の戦いまで(55分)

中国は後漢末。乱れに乱れた国を憂い人々を苦しみから救おうと志す劉備玄德は、心と同じくする関羽、張飛と義兄弟の契りを交わし群雄が覇権を争う中原へと躍り出た。……三顧の礼をもって迎えられた諸葛孔明は、天下三分の計を進言した。



208年、華北を制した曹操が江南を平らげようと7月に50万の兵を率いて南下を開始した。一方、江東に勢力を伸ばしていた孫権は、この報に驚き、文官武官を集めて、降伏するか戦うかの会議を始めた。文官のほとんどは降伏を主張していたが、そのころ劉備の軍師だった諸葛亮が訪問し、魯肅も主戦論に偏っていたためにこれを利用し、孫権の説得を始める。兄孫策の義兄弟でもある周瑜も後からやってきて主戦論を主張したために孫権は降伏派を一蹴し戦うことを決める。このとき孫権は自分の机を刀で切りつけ、「これより降伏を口にした者は、この机のように斬り捨てん」と言ったという。当初、周瑜は魏に降伏する考えであったが、諸葛亮から曹操が作った詩で「二喬」(自分と義兄弟の孫策の妻)を欲しがっていると聞かされ、怒って孫権に対して戦うようにと主戦論を主張した。

両軍は、長江に沿う赤壁で対峙した。周瑜は大軍を有する曹操を相手にするには火計しかないと判断し、周瑜は計略を使い、荊州水軍の要である蔡瑁を謀殺する。蔡瑁謀殺後に曹操の策によって偽りの降伏してきた蔡瑁の甥の蔡中・蔡和に対して偽情報を曹操軍に流させるなど大いに利用した。そして、苦肉の計を用いて、黄蓋に偽の降伏を申し出させ曹操軍内に下らせた。また、火計を効果的にするために、当時在野にいた龐統を使い、曹操に対して船上ですぐに酔ってしまう兵士達のためにと船同士を鎖でつなげる「連環の計」を進言し実行した。機は熟したとばかりに黄蓋が藁を積んだ船に火をつけさせ火計を実行、「連環の計」で互いの切り離しが間に合わない曹操軍の船は次々と炎上する

第二幕 出師の表から五丈原まで(55分)

大敗を喫し病に倒れた劉備玄德の遺言を枕元で聞いているのは、かつて劉備玄德自信が三顧の礼をもって迎えた孔明である。蜀では関羽、張飛もすでに亡く、劉備が蜀の未来を託した孔明は劉備の息子劉禪を皇帝の位につけ、関羽の息子の関興、張飛の息子張苞らがこれを支えていく。

魏の曹操もすでに世を去り、弱年の曹叅が後を継ぎ、名将司馬懿仲達がこれを助けている。孔明と仲達、二人の知略戦略が火花を散らす。仲達の率いる大軍が、わずかな兵の残る孔明の城に攻め寄せてくる。孔明は部下にすべての城門を開けさせ、自分は城壁の上で悠然と琴を弾きはじめた。攻め込もうとした仲達は戸惑った……”孔明に策あり”仲達は全軍を退却させた。孔明の”空城の計”である。やがて、孔明は自ら陣頭にたつて劉備の悲願であった天下統一と漢室再興のために、魏討伐の兵を挙げる。出陣に際し、孔明は劉禪に上奏文を奉呈する。世に名高い出師の表である。





人形たちを眠らせるな

脚本家 ジェームス三木



俳優のための脚本は山ほど書いてきたが、人形劇は[三国志]がはじめてだった。人形は箸でゴハンを食べられないし、馬に乗ったり下りたりもできない。その代わり炎の中を歩いたり、首が宙を飛んだりできる。そういう特質を飲み込むと、さまざまな実験ができて楽しかった。

なんといっても川本さんの人形がすばらしい。見れば見るほど愛着が湧いてくる。それに人形を使う中国の人々の、驚くべき技術はどうだ。芸術はすぐれた技術の上でのみ存在するということを、改めて思い知らされる。

もともとは中国語で書かれた原作を日本語に訳し、それをベースに私が脚本を書く。その脚本をもういちど中国語に訳して、人形遣いのスタッフに理解して貰う。中国スタッフは、上演時の日本語のセリフを音で追いながら、巧みに人形を動かしていく。思えば気の遠くなるような作業である。それでもスタッフは意欲的に仕事をした。真の日中友好とは、こういう形ではないかと思わせた。

人形劇[三国志]は大当たりした。巡演につぐ巡演で、おとなも子どもも、天下三分の計や苦肉の策に夢中になった。私は日本人がこれほど[三国志]が好きだとは思ってもいなかった。意外であった。

かつて日本の武士の教養は、中国文化を父としていた。信長も秀吉も家康も[三国志]を愛読したに違いない。そして[三国志]の世界は、時代や洋の東西を問わず、普遍的である。闘争本能とか征服欲とか、男の本質は昔も今も変わっていない。私たちは平和を愛しながら、戦争も嫌いではないのだ。

ただし戦争という概念は大きく変わった。核兵器の出現により、人類は絶滅の危機に瀕している。平和平和といくら叫んでも平和にはなるまい。今はひとりひとりが、自分の中にも潜む戦争を認識し、それとどう折り合いをつけるかが問われる時代なのである。

一流俳優による迫力の台詞

劉備玄德(りゅうびげんとく)	有川博
諸葛孔明(しょかつこうめい)	橋爪功
関羽(かんう)	諸角憲一
張飛(ちやうひ)	松井範雄
趙雲(若)(ちやううん)	青山伊津美
趙雲(老)(ちやううん)	三谷昇
曹操(そうそう)	立川三貴
仲達(ちゆうたつ)	仲谷昇
曹仁(そうじん)	田原正治
夏侯惇(かこうとん)	山口真司
孫権(そんけん)	小川隆市
周瑜(しゅうゆ)	金田明夫
魯肅(ろしゆく)	佐々木睦
黄蓋(こうがい)	有馬昌彦
劉禪(りゅうぜん)	青山伊津美
関興(かんこう)	世古陽丸
張苞(ちやうほう)	伊藤昌一
馬謖(ばしよく)	北見敏之
孫権(そんけん)	吉見一豊



国境を越える人形美術の魅力

日本の「三国志」ブームは、江戸時代のことはさておき、吉川英治先生の小説「三国志」にその源があると思われませんが、横山光輝氏のマンガが底辺をひろめたところへ、1982年NHKテレビで人形劇「三国志」が週1回のレギュラーで1年半という長い時間をかけて放送し、爆発的なブームになりました。その10年も前からテレビの人形劇で「三国志」の英雄たちをたくさん作りたくてうずうずしていた私のところへ依頼が来た、というのはまさに運命的でした。舞台の成功のためには、良い脚本、良い演出、良い演技者、そして良い観客が必要です。その総てが、うまく噛み合ったので、この「三国志」公演が実現できたのだと思います。1000人の観客に見せる1m20cmの人形を作ることはそれほど簡単ではありませんでした。これらの人形は、飾られるのではなくて、演じなければならないのです。

中国の人形劇団の人たちと、連日大きな人形と格闘していたころを思い出します。中国の人たちは、皆私を信頼して下さったので、仕事は和気あいあいと進みました。同じ人形の仕事をしている仲間は、民族に関係なくすぐに溶け合い、分かりあえるもので、これが人形芸術の大きな特徴だと言えます。

この大型人形劇「三国志」公演の成功は、人形劇の公演の枠を超える壮大なものです。今後、この「三国志」の壮大な魅力に匹敵して、観客を動員し感動させる人形劇が生まれるのは、果たして何時のことでしょうか。

人形美術家 川本 喜八郎

川本喜八郎 略歴

人形美術家・アニメーション作家

- ・1925年 東京、千駄ヶ谷に生まれる。
- ・1944年 旧制横浜高等工業学校
(現横浜国大)建築科卒
- ・1982～84年 NHK人形劇「三国志」の人形美術を担当
- ・1984年 「三国志」第26回児童福祉文化奨励賞
第17回テレビ大賞特別賞
- ・1993～94年 NHK人形歴史スペクタクル「平家物語」の人形美術を担当
- ・1995年 勲四等旭日小綬賞を受賞



劇団影法師

劇団影法師は1978年に創立。既成の概念にとらわれない斬新なアイデアと新技術を導入したフレッシュな創造活動により、文化庁主催公演を始め、日本全国を活動の場として精力的な公演を続け、日本の影絵人形劇界並びに児童青少年演劇界をリードしてまいりました。また多数の児童演劇団体が芸術活動を活発に展開する日本において、劇団影法師は東京都優秀児童演劇選定優秀賞をはじめ、数々の賞を受賞しており、これまでにその成果と優れた芸術性は高い評価を得てまいりました。

また劇団創立10周年を迎えた1988年より現在に至るまで、国際的視野に立った創作活動を推進し、欧米やアジア各国を代表する13カ国の劇団と18作品におよぶ国際共同制作を行い、海外公演も既に十数作品が30を超える国と地域において公演を実施しております。**これらの国際文化交流の功績により平成16年、劇団影法師は演劇団体として、初めて外務大臣賞を受賞しております。**

今後も「活力ある舞台芸術の創造」を目指し、世界の人々の相互理解を深める心の架け橋となることを願いながら、活動を続けて参ります。

中国天津木偶芸術劇院

中国天津木偶芸術劇院は、人形劇を専門的に公演する芸術団体として1976年に創立。洗練された伝統技術を受け継ぎ、日々中国国内における人形劇界をリードし、国内外において数々の賞を受賞している。海外公演も積極的に展開し、中国政府の文化使節として、ドイツ、オランダ、ベルギー、オーストリア、スウェーデンなどで公演を行い、様々なフェスティバルにおいて実績を残しています。中国全国第1回人形劇コンクールで大賞と中国文化部の“文華賞”を受賞。全国第2回“キングライオン賞”人形劇コンクールで大賞を受賞しました。多数の国家一級演技者、二級演技者を養成し、技能、操作及び人形の演技など、著しく高い水準を達成しております。今日も世界中の観客を楽しませるために、様々なスタイルやメディアを用いて毎年新しい作品を創出しつつ、世界の人形劇界の発展に寄与し、公演を通じた国際交流を目的に精力的な活動を続けている。

